

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2008年2月

No. 46



～ 1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

2008年2月までの報告と予定

- 9月 セントメリーインターナショナルスクールより本引取り
- 9～11月 南アにて学校菜園活動
- 10月 本その他を348個(18247冊)をダーバンへ出荷
- 11月 さいたま市にてTAAA活動報告会
- 11月 東京 JICA 地球ひろばにて TAAA と JVC 合同座談会
- 1月 JICA 視察団がンドウェドウェ学校訪問
- 2～3月 移動図書館車を南アへ送付
- 3月 TAAA から南アを訪問

内容

- 本からも大地からも学ぶことがいっぱい！(平林薫) 2
- 座談会“南アフリカの大地に生きる二人の女性が語る” 5
- カエリチャの移動図書館と学校訪問(木村香子) 6
- TAAA勉強会～私と国際協力～(丸岡晶) 7
- 副代表就任あいさつ 8
- TAAAと私 第7回(野田千香子) 9
- 南アの学校への手紙(西村裕子) 10
- 主な活動・ルイボスティ 11
- 寄付・会費・本などを下さった方々 12



ゴゴヴマ小学校の青空教室 図書室を開設する予定です。

本からも大地からも学ぶことがいっぱい！

～生徒が育てた大きなキャベツ/本と算数セットが南アに到着～

TAAA 南ア事務所代表

平林 薫

青々とした菜園

昨年6月から開始された JICA 草の根技術支援事業の“学校菜園プロジェクト”は、順調に活動が進んでいる。参加校の先生方や生徒たちの積極的な取り組みと、現地 NGO、ELET のンコシ農業指導員の活躍によって、草ぼうぼうだった敷地が青々とした菜園へと変わってきている。種や苗を植えた直後の9月から11月にかけて、タイミングよく十分な雨量があったことはとてもラッキーだった。

10月初めに担当教師を対象とした研修が行われた。まず各校から活動の進捗状況や問題点などの発表があり、農業指導員は今後の活動の予定を伝えた後、それぞれの野菜の育て方の注意点を具体的に指導し、教師からの質問に答えていった。また、教師同士が意見交換やアドバイスを行うなど大変活発な研修となった。活動の開始が遅れていた2校でも10月末までに畑作りが始まった。

その土地にあった農法を指導

プロジェクト参加 20 校全校で活動が開始されたとはいえ、難しい問題に直面している学校もある。虫害のためにハウレン草が全滅してしまった学校があり、新たに苗を購入、配布し、農業指導員が農薬の適切な量と散布の仕方を指導した。また、強い風が直接吹き付ける地域、土が肥沃でなかったり、水の供給が十分できなかつたりする地域の学校では、葉類の生長が遅れがちだ。ただ、そのような地域でもジャガイモや豆類は順調に生長している。農業指導員と共に各校の敷地の状態と、現在までの作物の生長を考慮して、それぞれの土地で最大限の収穫が得られるような方法を探っていこうと考えている。

将来有能なファーマーに

11月初めには JICA 担当スタッフ（日本から2名とプレトリア事務所から2名）のプロジェクト視察があった。一日で4校の訪問とかなり忙しいスケジュールではあったが、それぞれの学校における活動の進捗状況の違い、うまく進んでいる点、問題点などを見ていただけたと思う。自助努力ですでに菜園作りを始めていたズバネ小では畑から収穫された野菜を使ってランチを用意してくれた。少し前に同校を訪問したとき、畑に出ている男子生徒が、大きく葉を広げたキャベツの前に来て“ほら、これはもう収穫できるんだよ”といわんばかりに硬く巻いた中心部をぼんぼんとたたいて見せてくれた。シママネ校長は、“あの生徒は教室での勉強はちょっと遅れがちだけど、菜園のことは彼に任せておけるくらいなんですよ”と話していた。一つでも好きなこと、得意なことがあるというのは自信につながる。きっと彼は将来有能なファーマーになることだろう。プロジェクトに参加した生徒たちが、農業に興味を持ち、地域の農業振興に携わるようになってくれたら、というのは大きな目標だ。



将来有能なファーマーに

地域の農業振興へ

南アフリカの学校は新学年が1月中旬に始まり、11月末で夏休みに入る。9月頃に植えた種や苗の収穫がちょうど年末年始くらいになることから、休暇中の菜園の世話を父兄など地域の人々に依頼するよう指導した。数校の教師から農業指導員に電話があり、“休暇中に学校に出て収穫を行い、地域の人々が購入してくれたことで学校の収入となった”という話をしていたという。地域と

のつながりが深く、住民が菜園活動にも活発に関わってくれている学校もあるが、中には“なかなかコミュニティーの人々からのサポートを得るのが難しい”という学校もある。プロジェクトでは、学校における活動を“地域の農業振興”につなげていくという長期的な目標があることから、地域の人々の積極的な活動への参加を促すよう努力していきたい。

エマクルセニ小のキャベツ

会報45号でもご紹介したが、プロジェクト参加校の中で特筆したいのはエマクルセニ小である。エマクルセニ小は5年生から7年生まで生徒数70名の小さな学校だ。もともとは全学年だったのか、空いている教室がたくさんあるため学校全体が閑散として見える。8月に初めて同校を訪問し、物静かなンゴベセ校長とラデベ担当教師(両氏とも男性)に挨拶をしたとき、“この学校は特に支援が必要かもしれない”と心配したことを思い出す。その後、先生方の迅速な対応と、生徒たちの熱意、農業指導員的確なサポートによって野菜は見事に生長していった。JICA視察団と共に同校を訪問した時には、みずみずしいトマトや青々としたキャベツが収穫を目前としていた。エマクルセニ小のある地域は盆地で、暖かく日当たりがいい。また、水源が近くにあり、土壌がよいことなど環境にも恵まれている。この先、同校の活動の広がりが楽しみである。



エマクルセニ小 上：昨年8月開始前

中：11月 下：生徒たち



JICA視察団が訪問

JVCから学びたい

1月22日にプレトリアのJICA事務所において、現在JICA草の根技術支援のプロジェクトを行っているJVCとTAAAの合同ミーティングが行われた。JVCはコミュニティーに対する農業指導、TAAAは学校菜園と、両者とも農業技術支援という接点があることから、知識や経験の共有を目的とした研修会を3月にリンポポ州で行う計画をしている。ソドウェドウェでも将来的にコミュニティーに対する農業促進も行っていきたいと考えていることから、JVCのプロジェクトから多くのことを学べることを期待している。

図書室開設支援

11月末にダーバンに到着した本や教材は、学校が休暇に入ってしまったことなどから業者の倉庫に預け、年明けにELETの事務所に運び込まれて、小、中、高のレベル分けなど配布のための準備が始まっ

た。今回の本はンドウェドウェの菜園プロジェクトに参加している 20 校を中心に、移動図書館車が巡回しているイナンダ地区の学校などに寄贈する。また、ジョハネスバーグの日本国際ボランティアセンタ JVC(津山直子さん)、ソウエトの SOMOHO (マンドラ・メントールさん)、ケープタウンの南部アフリカの教育を支える会 (木村香子さん) 宛にも寄贈を行う。ンドウェドウェの 20 校への図書室開設支援も具体的に始まり、学習院高等科からの寄附金で、まずタタクサ小に本棚設置の準備が進められている。これらの活動の詳細については改めて次回 47 号で報告したい。



ンドウェドウェ・ダリボ小に本を寄贈



ダーバンに本が到着



水を汲みにいく女子生徒たち



植樹週間シャラガセ小



ムチャトゥ小の菜園活動



同左

南アフリカ座談会開催 JICA 地球ひろばにて

～ アフリカの大地に生きる

二人の女性が語る～

(特活)アフリカ日本協議会(AJF)、(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)、アジア・アフリカと共に歩む会(TAAA)は、2007年11月28日(水)JICA地球ひろばにて「南アフリカ座談会～アフリカの大地に生きる二人の女性が語る～」を開催。南アフリカから帰国されたばかりのJVCの津山直子さんとTAAAの平林薫さんによるそれぞれの現地での活動報告や、アフリカのエイズ問題の政策提言活動を通して南アフリカに思い入れのある林達夫AJF代表を加えた3人での対談など、非常に多岐に渡りました。

まず、TAAA代表の野田千香子さんより、今回の座談会の主役である二人の女性、津山直子さんと平林薫さんの紹介が行われました。両人とも、同じ時期ではありませんでしたが、当時、御茶ノ水に事務所があったアフリカ民族会議(ANC)で働いた経験があり、これを契機に南アフリカへ旅立ちました。津山直子さんは当初、反アパルトヘイト活動に従事していましたが、1994年の総選挙後は日本国際ボランティアセンターでの支援活動へとシフトし、現在も精力的に活動しています。一方、平林薫さんは、旅行や撮影関係など様々な仕事を経て南アフリカに導かれ、南アフリカに根を下ろし、2000年からTAAAの現地代表として様々な支援活動を行っています。

JVCの現地報告は、津山直子さんが実際に関わっている具体的な人々の名をあげながら行われました。JVCは現在、イースタンケープ州とリンポポ州を中心に活動を展開中です。主として前者では環境保全型農業(有機農業)を行っており、後者ではHIV/エイズ関連事業を実施しています。環境保全型農業では、「畑の多様性」「有機肥料」といった9つの指標を設定し、参加型モニタリングをして着実に成果をあげています。一方HIV/エイズ関連事業では、日本のNGOである特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会と共同で活動しています。

TAAAの現地報告は、過去の活動と現在の「学校菜園プロジェクト」に焦点をあてて進められました。TAAAの主な活動は教育支援であり、もともとは英語の本

や移動図書館車を南アフリカに送る活動をしています。特にクワズールーナタール州では現地NGOのELETをパートナーとし、従来の教育支援に加え、2003年からはJICAの助成を受けてHIV/ピア(相互)教育も展開してきました。そして今年6月から、同じくJICAの助成を受けて「学校菜園プロジェクト」がスタートしています。これはンドウェドウェ地区の20校で進められており、キャベツ・トマト・ピートルート(赤カブ)などが育てられています。これらは子どもたちの給食栄養改善につながるだけでなく、コミュニティ支援に拡大する可能性を秘めています。

両NGOによる報告が終わったあと、JICAの仁田さんから感想を頂きました。JVC・TAAA双方とも、JICAの「草の根協力支援」の助成を受けています。仁田さんは1ヶ月前に現地のプロジェクトを視察されています。どちらの活動も、たとえば物を大量に配布するような派手なものではありませんが、現地の方々が今後も無理なく進められるような根をはったものになっているということで、高い評価を得ています。

最後に、今回のメインイベントである対談が行われました。南アフリカで10年以上生きてきた二人の女性に加え、元JVC代表で現AJF代表の林達雄がコーディネーターとして加わりました。

南アフリカでの活動を始めるきっかけや、アパルトヘイト後の南アフリカ、エイズ問題、農業とエイズ対策を一緒にやる意義、現地の子どもの様子など、活発な対談となりました。

(アフリカ日本協議会からの報告より転載。夜にもかかわらず、60名を超えるかたの参加がありました。なお、当日の司会はTAAAの丸岡晶がつとめました。)

左から林さん、津山さん、平林さん



カエリチャの移動図書館と学校訪問

～木村香子さんからの便り～

木村さんは日本の NGO「南部アフリカの教育を支える会」の現地スタッフとして、ケープタウンで保育園の活動などをされています。2007年10月、木村さんにケープタウンのカエリチャ地区の TAAA が1昨年送った移動図書館車を訪問していただきました。木村さんが訪問されたテンペリーシュレ中高校には現在、TAAA からダーバンに届いた本の中から平林が選び、再送の準備を行なっています。2月中には届いていると思います。

先日、カエリチャサイト C にある Nolungile 小学校に、移動図書館車を視察しにいった参りました。下の写真は、私の左手が学校の先生、右が運転手とアシスタントの女性です。10月はそろそろ試験が近いので利用者は少なくなりつつあり、11月は運行しないそうです。

忙しい時は1校につき150冊の本が貸されることもあるそうです。現在は9校を巡回していますが、後1年くらいでカエリチャ内の他の9校に移るそうです。移動図書館車は図書的重要性を知ってもらう為のものでいつまでも続けていくわけではないので、その後の図書体制を各校で検討していかなければならない、と アモールさん(白人の女性)がおっしゃっていました。

今日は、カエリチャのテンペリーシュレ中高校に行ってきました。TAAAの米山さんも一昨年に訪問された所です。結構立派な図書室に新しい棚と辞書などが教育省から寄贈されましたが、フィクションなどの本は無いそうです。是非、色々なレベルの、幅広い分野の本がほしいと言う要望がありました。取りあえず少ない数で始めて図書体制を整えながら援助を続けて頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

授業の科目は、英文学、コサ文学、数学、生物、物理、会計、経済、経営、歴史、地理、生活科学、芸術文化、テクノロジーがあります。本を読まない生徒が多いので、易しく読みやすい本も必要です。

それでは、又、皆さん御元気で。報告会楽しみですね。

木村香子より

左から 2人目が木村さん

ノルンギル小学校(西ケープ州カエリチャ)



カエリチャの移動図書館車



カエリチャ地区の住宅



TAAA 勉強会

～ 私と国際協力～

丸岡 晶

私が国際協力に関心を持ち始めたのは社会人になってからです。ただ、以前から歴史や地理、世界に興味を抱いておりました。大学の卒論では「オーストリア＝ハンガリー二重帝国の民族統治政策」をテーマに選びました。また、グリークラブ(男声合唱団)では海外演奏旅行の担当になり、ハンガリー・チェコ演奏旅行を実施いたしました。そして教員免許では、「高校地歴」と「中学社会」を取得しております。その一方、「我々はなぜ生まれてきたのか、何のために生きているのか」といったテーマで親友と語り合ったものです。これらのことから、社会人になって国際協力に関わることは自然な流れでありました。

会社に入って配属された部署は総務でした。様々な仕事の1つとして、社会貢献体制の整備がありました。まずは社外に学ぼうということで、「厚生労働省マルチライフ支援事業」や「勤ボラ会」などに参加して情報交換を積極的に行いました。ここで出会った素晴らしい仲間から、世界のために汗を流す尊さを学び、以前から関心のあった分野で何かできないかと思い始めたわけです。このとき、私にとって国際協力が特別な分野になりました。

特にお世話になったNGOである(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)や(特活)ジェン(JEN)には、企業の社会貢献担当者として出会いました。SVAについては「絵本を届ける運動」を社内に導入し、JENについては会社の管弦楽団のコンサートをチャリティーにすることで協力を開始しました。現在私は、社会貢献担当者の兼務をはずれましたが、個人的に両者の会員になっています。また、SVAでは「チャイルドブックサポーター」などをやっており、JENではエコ検定合格者としての知識を生かして環境分野での相談にのったりしております。

SVAについては、スタディツアーでもお世話になっています。2005年にはカンボジアへ行き、プノンペン、コンポントム州、アンコール遺跡群を訪問しました。ポル・ポト派による大虐殺(200万人)の後遺症を体感して胸が苦しくなる一方、小学校で会社の同僚が贈った絵本に偶然再会するなどうれしいひと時もありました。2007年にはラオスへ行き、ヴィエンチャン、郊外のナローン村、ルアンパバーンを訪問しました。共産主義の国で統制がはかられていますが、人々は優しい笑顔をプレゼントしてくれました。しかし人口が少ないこの国は大変貧しい状況です。我々ができることはまだまだたくさんあります。

TAAAの会員として南アフリカに関心を寄せることはもちろんですが、「アジア・アフリカと共に歩む」という壮大な夢を目指し、視野を広くしてできることはやっていきたいものです。今もこれからも無理はせず、地道に継続し、自分も楽しむことが大切です。そして、NGOワールド・ビジョン・ジャパンのキャッチフレーズでもありますが、「何もかもはできなくとも、何かはきっとできる」という言葉に勇気をもらい、決してあきらめることなく、できるだけ多くの人たちが笑顔になるよう生涯努力していきたいと思っております。

(2008年1月5日に、TAAAスタッフが「丸岡さんから話を聞く会」を催し、丸岡さんに国際ボランティア活動へ関わる姿勢や経験を話してもらいました。)

TAAA 新体制発足

2008年1月より、TAAAは新しい体制で出発いたします。代表:野田千香子 副代表:浅見克則は変わらず、新たなに久我祐子と丸岡晶の2名が副代表に加わり、副代表は3名となります。西村裕子は総務として、会計その他イベントや広報などにもたずさわります。皆様のご支援に応じて活動を活発化していければと思っております。 TAAA 代表 野田千香子

副代表就任あいさつ 「出来ることをマイペースで息長く」 久我祐子



この度、副代表に就任しました久我祐子です。私は1993年、当時あったANC東京事務所でスタッフとして働いていた時に、野田代表と出会いTAAAのことを知り活動に賛同して参加するようになりました。当時南アは世界でスポットライトを浴びており、日本でも数多くのNGOが南アにかかわっていましたが、その中で「地味だけど実質的で息長くできそうな支援活動をしているな。私でもマイペースでかかわれそうだ。」が私のTAAAに対する率直な印象でした。この印象は今も少しも変わっていません。私自身も相変わらずのマイペースです。

民主主義の新生南ア誕生から早くも14年になろうとしています。その間黒人の中流やエリートも着実に増えてきた反面、未だ大多数の人たちが教育を受けるチャンスもなく取り残され厳しい生活を強いられています。エイズという新たな大問題も人々を苦しめています。世界を見ると、グローバル化、テロ、アフガン戦争、イラク戦争などあまり良くない方向に変わってきています。日本でも格差が広がり「勝ち組」「負け組」など人を物質的な物差しで区別・差別する品のない言葉が平気で飛び交うようになりました。このような弱肉強食容認の時代だからこそ、心ある人たちは草の根レベルで国境を越えて「もっとみんなが生きやすい世の中にしようよ」と手を取り合うべきではないでしょうか。その思いで、しっかりと南アの人たちと手を握り合っていきたいとおもっています。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。(写真:1996年、訪問先で南アの子どもを抱く久我祐子)

副代表就任あいさつ 「TAAAのさらなる発展を目指して」 丸岡 晶

このたび、TAAAの副代表に就任いたしました丸岡晶(まるおかまさる)と申します。まだ32歳の若輩者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。元々私は、企業で社会貢献担当者兼務しておりましたが、個人的にも国際協力活動してみたいという想いがあり、地元さいたまのNGOであるTAAAに出会いました。GambaNPO.netに登録されていた団体でしたので、安心感があったのを覚えています。その後、千葉県浦安市に引っ越ししてしまったため、会の大切な活動である作業などになかなか参加できず残念でしたが、平林さんの帰国報告会など大きなイベントにはなるべく日程を調整して顔を出すようにしておりました。また、離れた場所でも手伝うことができるWeb媒体向け広報などをご支援させていただきました。今後は、企業での経験、ほかのNGOでの経験、様々なネットワークを最大限に生かし、会の発展に貢献したいと考えております。特に、TAAAの国内活動を充実させ、支援者の方々とパイプを太くし、広報・資金調達(ファンドレイジング)活動を中心に注力して参りますので、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。(写真:2007年アフリカンフェスタにて、左から2人目が丸岡晶)



第7回

TAAAと私

(1995年)

野田千香子



TAAA が送った本を3人で1冊、読んでいた。(1995年)

本を集める

TAAA が設立した1992年度に集まった英語の本は7855冊だった。1993年度には28540冊その後も1年間の収集冊数は1万冊台～3万冊台までを行き来している。1995年は3万冊を越えた。初年度は主として高校に呼びかけて、中学の英語の教科書を集めて貰う事が多かった。何回か新聞に報道され、個人や企業からの寄贈も増えた。ここ数年はインターネットからのアクセスが増えたが、設立時はファックスとワープロの時代であったから新聞に報道してもらうことが活動を広げる最も効果的な方法であった。捨てられるはずだった本が南アで役立っていること、喜ばれていることをマスコミに積極的に知らせ、インタビューを受けるべく資料を送った。

インターナショナルスクールからの教科書の入替え時にはトラック一杯の教科書の寄贈を受けることもあった。そのような量の場合、引き取る場所もなかったため、スクールへ計量器やガムテープやラベルをリュックに入れて持参し、スクールの現場へ運送会社のトラックに来てもらい、たった2人で70個くらいのダンボールの梱包を半日で行なったこともあった。商船三井の船に乗せるべく、横浜港に直行してもらったのである。

しかし、通常は私の家の玄関で本の宅急便を受け取り、溜めておいてほぼ一ヶ月に一回、15分ほど離れた倉庫兼作業場に運び、TAAA のスタッフが日曜日に集まって、梱包作業を行なうということを10数年、続けている。

二度目の南ア訪問12の学校

1995年9月にTAAA内で設立時から中心になって力を発揮してきた浅見克則さんと、ジャーナリストの佐保美枝子さんと私の3人が南アを訪れた。佐保さんはアパルトヘイト下の南アフリカを長期に渡って取材され、「マリーの選択」(文藝春秋社)を刊行されたばかりだった。本がたくさん集まるようになり、さらに南アでの受け取り先を探していた私たちに佐保さんがダーバンの教育 NGO の ELET を紹介してくれた。そのときから13年間、TAAA と ELET は本だけでなく、学校菜園などの JICA のプロジェクトまで協力し合う関係を継続している。

私たちはクワズールーナタール州のダーバン郊外とハウテン州デベトンの学校を12校訪れた。これらの中で特に印象に残ったいくつかの学校がある。

ヨハネスブルグの近くのデベトンでは、1994年以前の暴動の際に窓ガラスがほとんど壊されたままの学校もあった。一方、少ない本を全校で順番に10人ずつ入れ替わりながら、15分読書を行なっている学校もあった。「家に本が何冊ある？」と聞くと生徒は、無いとか、1冊とか、3冊などと答えた。これが13年前の南ア訪問時の学校であったが、今もそう変わっていない地域が多いのだ。私たちは、その頃、こんなに長く支援を続けるとは思ってもみなかった。せいぜい、5～6年だろうと漠然と考えていた。

ダーバンを中心に ELET の教育指導を受けたことのある学校の授業は、少ないリソースを実にうまく使って良い授業をしているのに感激した。ポンバジ小中学校(500人)では、TAAA が送った本を脚色して演劇をしていた。リョイド小学校(1200人)ではバリトン歌手のような声量のあるウィンストン先生が1冊の本を手で授業をしていた。子どもたちの机の上にノートも教科書も無かった。黒板に先生は1枚の手書きの絵を貼り、このおじいさんはどこに何をしに行くのだろう、と子ども達に問う。生徒は夢中で「ハイ」「ハイ」と手を上げる。生徒に想像させながら、先生は読み進む。すごい集中力で子どもたちは先生の朗読に聞き入る。私たちの送った1冊の本がこんな使い方をされていることに感嘆した。アパルトヘイトの時代には、鞭を持った教員が一方的に押し付ける教育が行なわれることが多かったようだ。ELET のようなすばらしい指導を行なっている NGO と TAAA が協力し合えることを心から幸せに感じたのであった。(つづく)

南アの学校への手紙 第2回

手紙は英語に翻訳して南アの20以上の学校の廊下に掲示されます。2枚のカラー写真も添えました。

南アの皆さん、こんにちは。私は、TAAAスタッフの西村裕子と申します。皆さんへお送りする本を箱に詰めるお手伝いをしています。皆さんにお送りしている本の中には、英語だけの本もありますが、英語と日本語が混ざっている本もありますね。

今日は、ほんの少し、日本語のことをお話したいと思います。

日本語の中には、ひらがな・カタカナ・漢字という3種類の文字があります。漢字は、形が難しいけれど、最初に漢字を作った昔の人は、ものの形をイメージして作りました。山

これは、何を表していると思いますか？

答えは、mountain です。真ん中の線が高く、両脇に少し短い線が2本あって、山の形に似ているでしょう！

川

これは、何でしょう？ 答えは、river です。水が流れている感じがしませんか！

そして、この文字は、人 (person) です。2人の人が、お互いに寄り添っているところをイメージして作られた文字

です。私達は、どんな時でも、1人であるよりも、2人の方がいいよね。嬉しい時は、そのことを話して一緒に喜びたいし、寂しい時は、だれかと一緒なら、寂しさが吹き飛んじゃう！時々、けんかして落ち込むこともあるけれど、誰かがいれば、また楽しいことも起こりそう！日本語の人っていう漢字って、素敵でしょう！

それと、少し難しい形ですが、協力 という漢字も紹介したいと思います。似ている形が、4つ書かれていますね。力 という形は、power を意味しています。左端にある、十字架のような形は、10を表しているのですが、私は、「たくさん」という意味ではないかと思っています。小さいpower がたくさんと、大きいpower が1つ。さてさて、どんな意味の漢字でしょうか？

皆さんは、今、学校で、野菜を作っていますね。TAAAの平林さんが、たくさんの写真を撮ってきてくれて、皆さんが一生懸命、野菜を作っている様子を教えてくださいました。男の子も女の子も、みんなで土を耕して、種を撒いて、お水をあげていましたね。みんなが友達を思いやって、助け合っていて、えらいなぁと思いました。

みんなが助け合っている時には、たくさんの小さい力が集まっていますね！

あら？これって、もしかして、さっき紹介した 協力 という漢字の意味ではないかしら？

そうです！この 協力 という漢字は、小さい力も大きい力も、たくさん集まってみんなが助け合うという意味の漢字です。みんなが学校の畑でやっていることは、日本語で表すと、こういう漢字になるのです。

TAAAから送られてきた本の中に、日本語が書かれていたら、その中に、今日、紹介した漢字が書かれているかもしれません。山(yama)川(kawa)人(hito)協力(kyoryoku)探してみてね。西村裕子



私は、赤い角のトナカイを飼っているんです。5歳のニンジンが大好きなトナカイです。日本の12月は寒いので、セーターを着ていますよ。

ごめんなさ~い！これはジョークです。信じましたか？私が飼っている犬の写真です。赤い角はニセモノですが、ニンジンは本当に大好きです。

「これは、私達の協力(kyoryoku)です！」(西村:前列 本を持っています)

主な活動(2007年9月16日~2008年1月15日) 下線は南アにおける活動

9/17~19 ンドウェドウェ学校における菜園活動を支援 平林薫

9/23 ホームページについて会議 武山理絵 野田千香子

9/24 作業と会議 米山周作 浅見克則 野田

9/25 ELET オフィスにて菜園活動関連会議 平林

9/25 会報4 5号封筒準備など 大久保ふみ

9/25~10/1 会報4 5号編集 野田 校正:西村裕子

9/25~ HP改定試作 武山

9/26 ンドウェドウェ学校にて菜園活動 平林

9/27 JICA 海外青年協力隊の谷さんとマンドシ小学校を訪問し、図書活動を視察 平林

9/28 ELET オフィスにてJICA 報告書関連会議 平林

9/29 セントメリーインターナショナルスクールから本引取り 浅見

10/1 会報を印刷へ 野田

10/1 JICA 報告書を国際速達便にて送付 平林

10/2 ンドウェドウェ学校にて菜園活動 平林

10/4 報告会案内文作成 野田 丸岡晶

10/6 グローバルフェスタでAJF手伝い 久我祐子

10/6 アフリカ日本協議会 会議 野田

10/7 会報発送作業 西村 丸岡 野田

10/8 ~14 報告会webリリース 丸岡

10/8 会報をHPに掲載 近藤信幸

10/8 JICA 菜園プロジェクト教員研修開催 平林

10/15 ンドウェドウェ学校にて菜園活動 平林

10/21 作業と会議 浅見 西村 野田 山下八千穂
浦和学院高校より荒井あさひさん、氏原桃子さん、大澤実佳さん、大里沙也加さんが参加

10/20 西ケープ州カエリチャの移動図書館車を訪問 ケープタウン在住の木村香子さん

10/22 ンドウェドウェ学校にて菜園活動 平林

10/22 AJF、JVC、TAAA 合同報告会案内文作成 丸岡

10/23 英語の本その他3 4 8箱(1 8 2 4 7冊)南アへ出荷 野田

10/25 西ケープ州カエリチャのテンベリーシュレ中高校を訪問 ケープタウン在住の木村香子さん

10/26 ンドウェドウェ学校にて菜園活動 平林

10/28 KZN州へ問い合わせ ZOARへ手紙 久我

10/29 ンドウェドウェ学校にて菜園活動 平林

10/31 合同報告会webリリース 丸岡

11/1 TAAA 活動報告会と合同報告会を新聞社へリリース 野田

11/7 JICA 視察団とンドウェドウェ学校訪問の後、ELET でミーティング 平林

11/8 日本へ出発 平林

11/15 会議 平林薫 野田

11/25 TAAA 活動報告会 講師 平林
TAAA 懇親会

11/27 AJFにて津山直子さん・近藤直子さんたちと
打ち合わせ会議 平林

11/28 JICA 地球ひろばにて合同報告会(JVC、TAAA、AJF)
講師:平林 司会:丸岡 紹介:野田 参加:米山、
山下 牧野久美子、大友深雪

11/28 JICA 打ち合わせ会議 担当の玉井さんと
平林 野田

12/3 ZOARへ送金 野田

12/8 AJF 中期ビジョン会議 野田

12/8 HP更新 武山

12/9 南アへ戻る 平林

12/10 ELETにてミーティング 平林

12/13 TAAA 年賀状発注 野田

12/14 ELET オフィスにて2007年の活動の反省と 2008年の活動予定についてミーティング 平林

12/15 アフリカ日本協議会年末パーティ 野田

12/19 ELET オフィスにてJICA 報告書関連 ミーティング 平林

12/20 JICA 報告書を国際速達便で送付 平林

12/23 作業と忘年会 西村 野田 北爪健一 米山
浅見 関根章博 渡辺英通 浦和学院高校より佐々
木彩さん、小原歩波さん

12/25 TAAA 南ア・スタッフクリスマスパーティ 平林

1/5 TAAA スタッフ会議 野田 浅見 久我 丸岡 山下

1/5 丸岡晶から話を聞く会(私と国際協力) 丸岡

浅見 野田 久我 山下 梶村佐喜江

1/9 JICAへ書類郵送 野田

1/10 南アの子どもたちへの手紙用意 西村

1/10 南ア3月訪問計画書 野田

1/15 ひろしま祈りの石助成金報告書作成 野田

ルイボスティのご紹介

南アフリカの西ケープ州だけに取れる健康茶ルイボスティをご購入いただきますと、売上の一部がTAAAに寄付されます。ノンカフェインですので、赤ちゃんから、高齢の方まで、召し上がっていただけます。

1箱 80パック 2000円(送料一律500円)
(5箱以上 送料無料)

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。

お申込みは、P12のTAAA連絡先へ

ルイボスティに同封する振込用紙で後からご送金ください。